平成３１年２月５日
北九州市立上津役中学校
校　長　　森　　隆
No.１０

平成 30 年度　上津役中だより

梅の蕾もまだ固いようですが、保護者の皆様におかれましては、お変わりなくお過ごしのことと存じます。１・２年生の生徒たちは、３年生の高校入試に向けての努力する姿に触発され、真剣に学習に打ち込む雰囲気が出てきました。来週の 13 日（水）から１・２年生は学年末考査が、３年生は直前考査が行われます。１・２年生は学年のまとめとして、３年生は３年間の総まとめとして考査へ向けての良い準備をしてください。この試験勉強は、学年末考査の成績や高校入試のためだけではなく、皆さんが成長して人生の喜びを味わうためのものになります。先月の始業式でお話ししたように、勉強が楽しくなるまで頑張り続けることが、皆さんの大きな成長につながります。考査のための試験勉強で、「考える」「記憶しようとする」「問題を解こうとする」そういった努力が、皆さんの頭脳を鍛えます。そして、問題が解けたり、答えの意味が解り納得できた時の充実感を味わうことが、皆さんの大切な経験となり、皆さんの強い心を培うのです。人間の心の強さは、「自分次第でいくらでもポジティブに転換できる」ことだと思います。勉強の苦しさを乗り越えて、充実感のある楽しい勉強にしましょう。

女子バスケット部が、新人市内大会で、力の限りを尽くしました。

1 月 12 日に北九州市立総合体育館で、新人市内大会の 1 回戦と 2 回戦が行われました。初戦は小倉南区の東谷中との対戦でしたが、実力に勝る本校が前半から圧勝し、33 対 18 の大差をつけ後半を迎えました。後半も生き生きと楽しくプレーでき、最終的には 52 対 34 で勝利しました。日頃の練習の成果を発揮できた素晴らしい試合でした。

2 試合目は、県内でも上位の実力を誇る小倉北区の菊陵中との対戦でした。上津役中の選手たちは緊張の為か、相手のスピードについていけず第１クウォーターは全く得点を奪えません。特に、遠くからのスリーポイントシュートを何度も決められ、リズムに乗れず防戦一方でした。しかし、ハーフタイムで監督の小笠原先生の言った「相手が強豪校でも、強い気持ちでチャレンジしよう。」というアドバイスに応えて、選手たちは必死にプレーし、相手のスピードに対応することができました。そこで、何度もシュートを決めることができました。きっと上津役中の選手たちは「気持ちを強く持って立ち向かえば、強豪校でも戦える。」という自信をもてたと思います。ぜひ夏の大会へ向けて、「チャレンジスピリット」をもって、これからの練習に励んでもらいたいと思います。

主将 大高さんの低い姿勢のディフェンス

←和泉さんのフリースロー
花田さんのフリースロー↓

「上の原冬まつり」で、本校ダンス部が大いに盛り上げました。

1グループ目 Sia の「Cheap Thrills」

2グループ目 Zara Larsson の「Ain't My Fault」

1月20日（日）に、上の原公民館で「上の原冬まつり」が開催されました。そこで、上津役中学校ダンス部が、素晴らしいダンスを披露し、観客を魅了しました。観客は、地域の小中学生や本校卒業の高校生、お年寄りの方々で、老若男女を問わず様々な人々が集まりました。公民館に100名を超える方々でいっぱいになり、大いに盛り上がりました。ダンス部は、3グループに分かれ、それぞれが特色のある曲に乗って踊りました。1グループ目は Sia の「Cheap Thrills」というゆっくりしたテンポの曲で、独特な動きを多く取り入れたダンスでした。2グループ目は、Zara Larsson の「Ain't My Fault」という曲で、動きに緩急をつけ、フォーメーションに工夫したダンスでした。3グループ目は JABBERLOOP の「イナズマ」というアップテンポの曲で、ダイナミックな振り付けを丁寧にリズムよく踊りました。その後、大勢の観客の中から自然に「アンコール」の声が湧き上がってきましたので、昨年大ヒットした DA PUMP の「U.S.A」の曲に乗って、踊りました。全員が知っているだけに最高潮に盛り上がり、素晴らしいフィナーレを飾ることができました。地域の方々からは、口々に「ダンス部あっての冬まつりだ！」とか「ダンス部が主役だ」など最高の賛辞を頂きました。ダンス部の生徒たちは、上の原公民館のステージの広さに合わせて、自分たちで振り付けを考え、何度も練習を積み重ねてきました。ステージと観客が一体となった素晴らしいパフォーマンスの陰には、ダンス部員たちとそれを支える西山先生と峯先生の努力があったことを申し添えておきます。

3グループ目 JABBERLOOP の「イナズマ」

DA PUMP の「U.S.A」　観客と一体となり、盛り上がったラストダンス

2年生で、「もやもや攻略法」の授業が行われました。

1月25日の5校時と6校時で、2年生の各クラスを対象に、スクールカウンセラーの田中裕望先生と西村美帆先生が、それぞれの担任の先生と共に「生涯にわたるメンタルヘルスの基礎（ストレス対処法）」の授業を行いました。生徒は、つらいこと・苦しいこと（悩み：心のもやもや）を解消する手立てを学び、一人一人が真剣に考えてくれました。授業の感想で、次のような文章を書いてくれました。いろいろな受け止め方があり、しっかり考えているので、その一部を紹介します。

スクールカウンセラー田中先生のお話

今日の授業で人に聴いてもらうことは、とても大切な事だということが学べました。私も、よく友達関係で悩むことが多いです。でも私は、最初に友達に悩みを聴いてもらっています。友達に相談することによって、自分の悩んでいる心や苦しくてつらい心も全部正直に言えるのは、やっぱり友達だからだと思うからです。私もなにか友達ともめたりすると、すぐに泣いてしまいます。私は、泣くなんて弱いって今まで思っていたけど、今日の授業で泣くことは良いことだと分かったので、嫌なことがあったらたくさん泣きます。今日の授業も受けられて本当に良かったです。

私もよく友達の相談を受けたりすることがあります。その時につい、「何かアドバイスしなきゃ」と思ってしまいます。でも今日の授業で、「聞いてもらうだけで良い」ということを学びました。聞くという動作自体が、その友達を救っていたんだと少し安心しました。自分は、今も悩みがあります。今までも友達に相談することはあるけれど、ほとんどは自分で解決していました。でもこれからは、自分の悩みを正直に言って、心のもやもやを解消してみようと思いました。

今回の授業は、相手の話を聞くポイントと一人で抱え込まないと言うということを学びました。自分のためになったので、良かったです。友達の悩みもしっかり聞こうと思いました。

佐藤先生とスクールカウンセラー西村先生のお話

「もやもや攻略法」について、話し合っている様子

演劇部が、朗読劇「夏服の少女達」に挑戦しました。

1月25日に、演劇部が本校２階の多目的室で、「夏服の少女達」という朗読劇を発表しました。朗読劇は、第二次世界大戦中に原子爆弾の落ちた広島県の己斐町を舞台に展開されます。第一県女と呼ばれる有名なエリート女学校に通う女生徒たちが、楽しく青春を謳歌している最中、原子爆弾が落とされました。女学生たちは、酷いやけどを背負い、翌朝にはほとんどが亡くなってしまいました。その悲哀、どうしようもないやるせなさを表現した劇です。そして、戦争が如何に恐ろしいかを感じさせる劇です。

この朗読劇の脚本は、「山内太陽」氏が「大野充子」さん著の「夏服の少女達」という本を元に作成したものです。山内氏は、2006年に広島平和記念資料館主催の中高生ピースクラブ研究発表会において発表しましたが、その時に、次のように述べています。

この「夏服の少女達」の朗読劇を発表した理由は、女学生という自分達と比較的近い世代の人間が、このように戦時下という状況に置かれながらもそれぞれに日々楽しみを持ち一生懸命に生きていこうとする姿に感動したからです。また同時にそのような少女達の命も夢も一瞬にして奪ってしまった原子爆弾の惨さを改めて痛感したからです。戦争が終わって60 年以上が経ちますが、この「60 年前広島に原爆が落とされた」という事実は決して忘れてはいけないし、次の世代にこれを伝えていくことは自分達の義務だと思います。この朗読劇を通して少しでも多くの人に原爆の惨さについて知ってもらい、それが被爆体験継承の一助となれば幸いです。

演劇部監督の江口先生が、上記の山内氏と同じ「平和の大切さを後世に伝いたい」という思いで、演劇部に紹介しました。演劇部の生徒たちは、江口先生の熱い思いを受け止め、朗読劇に挑戦しました。何度も練習を重ね、1月25日の発表では、心のこもった演技を見せてくれました。江口監督は、「キャストの演技は脚本を見ながらセリフを言えるが、見ぶり手ぶりのない中で、声のトーンや速さ、言い方だけで表さなければならないので、かえって難しい。」と言われます。そんな中、キャストはそれぞれの役になり切って、内面にある心情を表現し、臨場感あふれる演技を見せてくれました。音響とそのバックの映像も迫力があり、爆撃機「エノラ・ゲイ」や原爆の「きのこ雲」などの映像と音楽は、我々観客の心を揺さぶりました。ぜひ、全校の皆さんにも紹介し、平和を考える時間にできればと考えています。

芸術鑑賞教室「ドラムＴＡＯ」で、大きな感動を覚えました。

1月29日、黒崎ひびしんホールで、北九州市が主催する芸術鑑賞教室が行われました。抽選の結果、本校の1年生が鑑賞することができました。全国的に有名な「ドラムＴＡＯ」の演奏で、生徒は本物のプロの演技に圧倒され、1時間半があっという間に過ぎ去り、大きな感動を覚えました。

最初は、半径３ｍ以上ある大太鼓を筋肉隆々の男性が迫力をもってリズムよく叩き、それが会場中に響き渡ります。女性も加わり、力強く一糸乱れぬ同じ動きでリズムを刻みます。一転して暗闇の中から人間の形をした緑のライトが、リズムに乗ってダンス。観客に向かって声を出さず、身振り手振りで手拍子のリズムで行う会話。腹筋を使って苦しそうな男性演者の表情を、映像に映し出すユーモア。楽しい時間です。次に太鼓と琴の曲で、桜吹雪の映像の中で、赤と白の衣装をまとった女性二人が舞うはかなさが表現されました。舞台は一転、真っ赤な衣装に赤の棒をもったたくましい男性が、大太鼓、横笛、小シンバルのリズムに乗って迫力の踊り。舞台中央の高段に月のように光った大太鼓を美しく叩く女性。さらに舞台で旗・光る銀の棒を使っての演武。三味線、太鼓のリズムに乗って、２ｍの立方体を自由に操りながらのダンス。全ての動きが格好良く美しく、たくましく迫力があり、新鮮で驚かされるものばかりでした。

この文章では全く表しきれませんが、1年生にとっては、心に残る素晴らしい体験になりました。